

特集1 まちかど座談会から

問 生ごみ処理機の普及について
 生ごみの減量率は、今10%で横ばいだと聞く。燃えるごみの中に生ごみが40%ほど占めているが、生ごみ処理機などで削減

答 有料化は、ごみ減量20%を目指すのに有効な手段とは思いますが、有料化せず、10%減量まで至ったことは、大きな市民の実績だと思う。景気も悪くなり市民の皆さんの所得が減る中で、さらに負担を強いる有料化は難しいと判断している。ごみの減量は、やる気のある人はすでに取り組んでいるが、関心のうすい人は取り組んでいない。そこで、関心を持ってもらう方法として、金メダルバッジをつけて啓発することとした。PTAなどの協力もあり、多くの子どもたちが「やればできる」というフレーズを覚えてくれたと思う。この輪を広げること、当面はごみの有料化はせずに、ごみ減量を進めていきたい。

ごみ減量20% ごみの有料化について

問 今後の財政運営について、どのような考え方で進められるのか教えてほしい。

行政・自治



できることを大々的に取り上げてはどうか。
答 ごみ減量20%は、2期目の選挙公約から出している。ごみに手をつけない限り行政コストの縮減は難しいと考え、挑戦の意味で掲げたもの。わたし(市長)も「くいしんぼ」という生ごみ消滅器を試してみようと思っている。生ごみがどれくらい減るのか実験し、体験談として広報への掲載を考えている。家の片隅でできるので、アパート、マンション暮らしの人でも取り組めて良いと思う。また、市民団体の安城エプロン会が「くいしんぼ」の使い方について説明会を行っている。

問 自治基本条例ができ、市民参加条例もつくると聞いているが、そのことを町内会へもお知らせしていただければ、お手伝いができると思う。

答 自治基本条例はまだまだ知らない人が多く、今後も宣伝・説明をしていきたい。町内会連絡協議会と相談し、町内会へも

自治基本条例・市民参加条例について

答 高齢化は止められないので、少子化を食い止めたいと考えている。財政状況が厳しくなっても、子育て支援のサービスレベルは下げないでいきたい。公共投資は市民生活上、緊急に必要なもの以外は、計画を延期するなどしていきたい。公園などは使えるレベルでの整備にとどめ、刈り草たい肥プラントも延期していく。ほかの事業も期間延長することで、年間に使う予算を減らし、民間に任せようが効果があがるものは委託していく。人口の急増期が続いたが、この間、職員の数はおさえてきた。安城市は過去5年間、なるべく基金(貯金)を増やし、市債(借金)を減らすようにしてきたので、今後も健全財政を堅持できると思う。

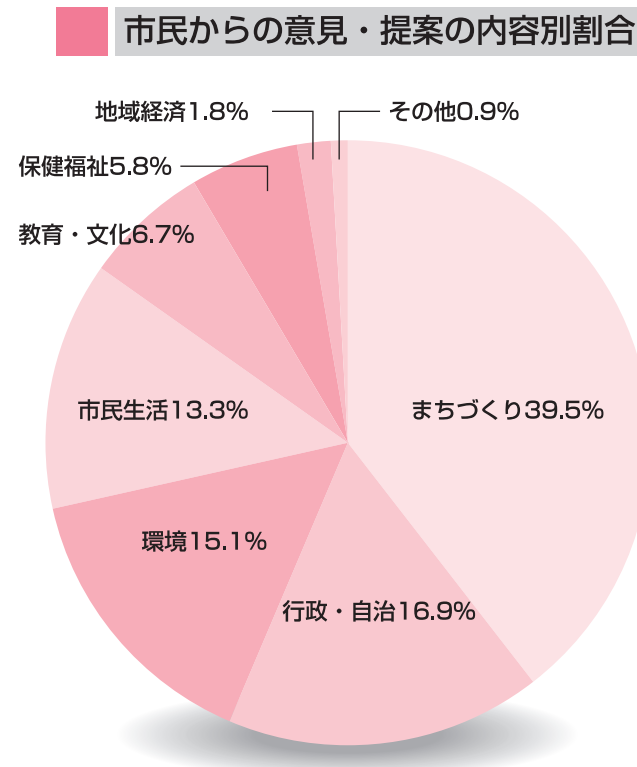


問 名鉄と立体交差する2本の道路(県道・市道)をどうして同時期に作るのか。周辺の渋滞がすごいので、できる方から着手しても良かったのでは。

答 北部区画整理が進み、市道・柿田公園線南進道路の設計は4年ほど前から始まった。市道を先に完成させることは可能だったが、住宅地にトラックがたくさん流入することが予想された。県道・豊田安城線の高架と同時に完成することで、大型車は県道、小型車は市道とすみわけできるため、2本の道路を同時完成することとした。

まちづくり

説明の機会を持ちたいと思う。



7月から11月にかけて、市民の皆さんと市長が直接対話する「まちかど座談会」を、小学校区単位の19会場で開催しました。座談会の前半部分では、市長・副市長が安城市の状況・課題・自治基本条例(10月1日公布、来年4月1日施行)・環境問題について説明し、後半部分では、市政や地域の課題などに対する皆さんの意見・提案に、市長・副市長・担当部長が回答しました。その一部を紹介します。

特集1

まちかど座談会から

513人が参加、225件のご意見・ご提案がありました



あんくるバスについて

問 あんくるバスが来ない地域があり不便。地域の人に「バス停まで送って」と頼むのは難しい。福祉の面から考えてほしい。

答 バス路線充実のニーズは高いが、議論の中で、完璧なものにするには相当な経費がかかることがわかった。これまでの路線で、5年間で4億円かかっている。10月からの路線で8億円。さらに路線を延ばし、ダイヤを増やしてより充実させようとする12億円必要と試算した。厳しい経済情勢下で、従来の3倍もの投資は困難だと判断せざるをえなかった。何箇所か空白地区が残ったが、費用対効果を考えた結果、今の路線に落ち着

道路の雑草対策として

問 雑草対策として、ヒメイワダレソウを、県道の約100mに町民で植えた。ヒメイワダレソウは短期間に根を張り、ほかの草が生えないので、ごみ減量にもなる。ほかの場所にも雑草対策として、この方法でやれないかと思っている。わたしたちも協力するので、市の配慮をお願いしたい。

答 非常に良い取り組みなので、ヒメイワダレソウの実施を一度検討させていただきたい。みなさんと協議させてください。



ヒメイワダレソウ

歩道の管理について

問 歩道の手入れをしてほしい。除草が不十分であったり、でこぼこで歩きにくかったりする。県道だと思うが、市で何とか直してほしい。

答 県道は、県が年に1回除草している。県は財政難で1回しかできないと言っているが、でこぼこの場所なども含め、地元からの要請があれば、市から県へ伝える。

油ヶ淵水辺公園の整備について

問 油ヶ淵水辺公園の整備について、進ちょく状況を教えて欲しい。

答 油ヶ淵水辺公園は県営公園だが、第1期整備35・7ヘクタール(全体140ヘクタール)のうち安城部分が21ヘクタールある。平成20年度までに用地買収の4割が進ちよくした。年間に10億円ほど用地買収し、すでに6ヘクタールの買収が済んだ。平成18年、29年が第1期整備で、県の財政状況を心配しているが、このペースで進めたいと思っている。

公園整備について

問 桜井中央公園に日よけとトイレを整備してほしい。

答 税収の落ち込みから、公園整備は、ほかの地域も含め延期させていただいている。とりあえず公園として使える形で、1

いた。この10月からの変更で、利用者が一日あたり183人、月5400人ほど増加した。空白地区の対策として、ボランティアでの送迎などの意見も聞くが、現状はなかなか難しいと思う。今後、町内会などから意見をいただき検討していきたい。

市民生活

夜間防犯パトロールについて

問 近くのマンションで、最近車上荒らしがよく発生している。午後10時以降の夜間パトロールを強化できないか。

答 車上荒らしについては増えていると認識している。いろいろな犯罪が増えている中で、各地区で防犯パトロールを行っている。ただ感謝している。政権交代で不透明だが、来年4月以降も国の緊急雇用対策の事業が継続されれば、警備会社などによるパトロールも検討していく。

交通標識を直してほしい

問 道路面の規制表示が薄れていて分からないところがある。夜も「止まれ」が分かりにくい。

年我慢していただきたい。景気の回復状況をみて判断することになるが、トイレと浸水に対する調整池機能の整備は進めていく。日よけは来年度では手が回らない状況。その次の段階で対応したいので我慢していただきたい。

更生病院跡地利用について

問 更生病院跡地の活用がどのようなか知りたい。

答 更生病院跡地利用については、かつて多くの意見がだされたが、まとまらなかった。市に任せられた。各方面の意見を聞き、集客力のある図書館機能を持った施設を計画している。現図書館の利用者数は年間40万人ほど。現図書館は昭和60年開館で、人口15万人規模を想定しており、18万人市民の現在では、蔵書の収容能力不足に直面している。現図書館と新図書館の2館体制で機能分担することで、より充実した図書環境をつくりたい。現図書館は資料庫的な活用を、新図書館は読書空間としての活用を考えている。図書館建設はかなりコストがかかるので、民間の参入なども考えながら計画している。12月中にはパブリックコメント(※)を行い、

そのようなところが各所にあり、少しは直してもらったが、早めに対処し、事故防止をしていただきたい。

答 道路標示について、「止まれ」の表示や路側帯などは、消えかかってきたところから直している。ただ、費用面で一度にできない。3年から4年をかけて、危険度の高いところから計画的に進めているが、交通標識に関しては、県公安委員会で取りまとめているので、そちらへ要望していくことになる。地域で目立って危険な場所があれば、町内要望として教えていただきたい。

保健・福祉

周産期母子医療センターについて

問 安城更生病院に周産期母子医療センターができるが、市として何か支援があるのか。

答 周産期母子医療センターについては、妊婦のたらい回し事件などの教訓から設置が求められていたが、愛知県では三河部になかった。県から安城更生病院に打診があり、市としては、初期投資予算の不足分の補助を

市民に内容を見ていただき、意見をいただく機会があるので、広報などに注意していただきたい。※広報あんじょう12月1日号に掲載。

自転車利用がしやすいまちづくりについて

問 自転車の活用について、モデル地域として北部に自転車道を備えた道路を整備するが、継続事業として自転車利用がしやすいまちづくりを進めてもらいたい。

答 今年度は、新安城駅前線の北部区画整理地区内を、来年度以降は、南側を整備していく。引き続き、自転車道などのネットワークづくりを進めたいと思っている。



検討することにした。



その他

救急車について

問 最近、救急車が来ると一緒に消防車も来るがどうしてか。

答 救急車に応援でついでくるマンションなど高層の急患だと搬出するのに人手がいる。救急車は3人乗車までなので、それ以上の必要な人員を、消防車で運ぶこともある。高層の急患搬出には、6人の人手が必要となることが多い。

問▼秘書課広報広聴係
(☎7122202)